

# なぜ? なに? Q&A

海岸に近い島が、砂の堆積でできた砂州によって陸地とつながることがあります。中には潮が大きく引いた時にだけ砂州が島と陸地を結ぶ「海の道」のように姿を現す場所もあります。

## トンボロ

Q どこにあるの?  
A 国土地理院は、国内47カ所を例示しています。北海道函館市の函館山や神奈川県藤沢市の江の島、静岡県西伊豆町の堂ヶ島などです。このうち函館山では、トンボロ上に市街地が広がっています。一方、江の島や堂ヶ島では一定の条件がそろった時にトンボロが現れて陸地と地続きになります。海外では、フランスの世界遺産モンサンミッシェルが有名です。

## 島と陸を結ぶ「海の道」



江の島に続くトンボロ。右は江の島大橋、左は江の島のトンボロを歩く人たち(いずれも藤沢市観光協会提供)

Q 島がつながる?  
A 「トンボロ」という地形です。イタリア語に由来し、日本語では「陸繋砂州」と言います。砂州でつながった島は「陸繋島」と呼ばれます。

Q トンボロはどんな仕組みでできるの?  
A 波に運ばれた砂が徐々に

堆積し、長い年月をかけて形成されます。江の島では、島にぶつかって二手に分かれた波が島の裏側に回り込んで合流します。その際、運ばれた砂が対岸との間に砂州を成長させました。

Q 海面下のトンボロはいつ見られるの?  
A 潮の干満差が大きくなる新月と満月の前後が狙い目です。場所によってトンボロが見られる潮位は異なるので、出かける前に潮位表を確認しましょう。ただ、自然現象なので必ず見られるとは限りません。

Q 歩いて渡ると面白そうだね。  
A カニやハゼ、時にはウミヘビなどの海辺の生き物を見つけたり、貝殻を探したりして楽しめます。ただし潮が満ちてくると海の道は水没するので注意しましょう。歩いてみると、プラスチックごみなども目につきます。プラスチックは分解されにくく、海を長く漂って生き物に悪影響を与える恐れがあります。海洋環境について考えるきっかけになるかもしれませんね。

記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 次の[ ]にあてはまる語句を本文中から抜き出して書きましょう。

・「トンボロ」は、イタリア語に由来し、日本語では[①]という地形の名称である。

・波に運ばれた砂が徐々に[②]して、島と対岸の陸地との間に[③]が形成され、陸地とつながる。

2 トンボロ上に市街地が広がっている場所の例をあげましょう。

3 干潮時など一定の条件がそろった時にだけトンボロが現れ、島と陸地がつながる場所の例をあげましょう。

日本国内(2か所)

海外(1か所)

